

- ischemia-reperfusion injury of canine coronary microcirculation in vivo. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-77, 2004.
- 115) T. Fujiki, M. Hatanaka, K. Morikawa, H. Kubota, T. Matoba, MAH. Talukder, H. Shimokawa. Endothelium-derived hydrogen peroxide accounts for the enhanced EDHF-mediated relaxation by long-term treatment with an angiotensin-converting enzyme inhibitor in mice. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-77, 2004.
- 116) K. Abe, T. Uwatoku, K. Oi, T. Hizume, H. Shimokawa. Long-term inhibition of Rho-kinase ameliorates hypoxia-induced pulmonary hypertension in mice: partial dependence of endothelial NO synthase. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-132, 2004.
- 117) T. Hizume, K. Morikawa, T. Uwatoku, K. Oi, K. Abe, H. Shimokawa. Sustained elevation of serum level of cortisol induces hyperconstriction of porcine coronary arteries -Possible involvement of Rho-kinase- *Circulation*. 110 (Suppl III):III-153, 2004.
- 118) T. Morishita, M. Tsutsui, H. Shimokawa, H. Tasaki, O. Suda, Y. Sasaguri, N. Yanagihara, Y. Nakashima. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-180, 2004.
- 119) T. Yada, H. Shimokawa, O. Hiramatsu, M. Goto, M. Katsura, S. Okuma, E. Tanaka, Y. Shinozaki, H. Mori, T. Kiyooka, F. Kajiya. Beneficial cardioprotective effects of hydroxyfasudil, a specific Rho-kinase inhibitor, on ischemia-reperfusion injury in canine coronary microcirculation in vivo. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-242, 2004.
- 120) Y. Fukumoto, A. Ito, H. Tanaka, T. Kishi, H. Shimokawa. Extracorporeal cardiac shock wave therapy ameliorates myocardial ischemia in patients with severe coronary artery disease. *Circulation*. 110 (Suppl III):III-464, 2004.
- 121) H. Shimokawa, A. Takeshita. The role of Rho-kinase pathway in the development of atherosclerosis and hypertensive vascular lesions. The Third International Congress on Cardiovascular Diseases (November 26-28, 2004, Taipei, Taiwan). \* *Keynote Speech*
- 122) H. Shimokawa. Rho-kinase as a novel therapeutic target for the treatment of cardiovascular diseases. The Second International Symposium of the Kyushu University COE Program "Frontier Research and Education on Lifestyle-Related Diseases based on the Large-scale Cohort Study" (December 4, 2004, Fukuoka, Japan).
- 123) H. Shimokawa. Therapeutic importance of fasudil, a Rho-kinase inhibitor, in cardiovascular medicine. The 8<sup>th</sup> Annual Scientific Meeting of the University of Hong Kong; Vascular Biology: From Bench to Patient. (December 11-12, 2004, Hong Kong)
- 124) H. Shimokawa. The therapeutic importance of Rho-kinase in the pathogenesis of coronary vasospasm and arteriosclerotic diseases. The Catholic Cardiovascular Symposium (December 17, 2004, Seoul, South Korea)
- 125) 塩谷聡子、島田光生、副島雄二、

- 吉住朋博、下川宏明、前原喜彦：Dominant-negative Rho-kinase を用いた肝冷保存後再開灌流傷害のメカニズムの解明と遺伝子治療の可能性 -Reactive oxygen species (ROS) 抑制効果-, 日本外科学会 (4月7-9日、2004年、大阪) (シンポジウム)
- 126) 伊東啓行、松本拓也、庄司哲也、米満吉和、下川宏明、前原喜彦：遺伝子治療、体外衝撃波治療による血管新生療法の開発と血行再建後療法としての展開。日本外科学会 (4月7-9日、2004年、大阪) (シンポジウム)
- 127) 松本拓也、伊東啓行、下川宏明、井口博之、庄司哲也、群谷篤史、米満吉和、前原喜彦：末梢血幹細胞移植の長期予後および血管新生療法の新展開 -血管新生療法の限界と挑戦-, 日本外科学会 (4月7-9日、2004年、大阪) (シンポジウム)
- 128) 山口将平、橋爪 誠、下川宏明、金城 直、堤 敬文、小西晃造、津川康治、川中博文、富川盛雅、前原喜彦：ラット肝硬変モデルの肝内微小循環障害に関与する Rho/Rho kinase 伝達系の検討, 日本外科学会 (4月7-9日、2004年、大阪) (シンポジウム)
- 129) 福本義弘、下川宏明、大井啓司、阿部弘太郎、上徳豊和、伊藤 昭、竹下 彰、砂川賢二：重症虚血性心臓病に対する非侵襲性体外衝撃波治療の開発。第10回 Circulation Club (5月15日、2004年、木更津)
- 130) 森川敬子、下川宏明、高橋成輔：ヒト腸間膜動脈における EDHF 依存性弛緩反応における SOD の役割。第10回 Circulation Club (5月15日、2004年、木更津)、東みどり子、下川宏明、森川敬子、高橋 成輔：Angiotensin II 投与マウスにおける Rho-kinase のアイソフォーム Rho-kinase  $\alpha$  と Rho-kinase  $\beta$  の発現の相違。日本麻酔学会 (5月27-29日、2004年、名古屋)
- 131) 下川宏明：Rho-kinase 阻害薬の基礎的・臨床的研究。第110回日本薬理学会関東部会 (6月5日、2004年、静岡)。シンポジウム「セリン/スレオニンキナーゼ阻害薬の基礎と臨床への展開」
- 132) 吉田昌義、樹元章浩、伊藤 昭、井上修二郎、福本義弘、廣岡良隆、下川宏明、砂川賢二：LMT 相当病変の AMI に対して PCPS 下の Y ステントにて救命し得た症例。第96回日本循環器学会九州地方会 (6月26日、2004年、熊本)
- 133) 堤 孝樹、山本博昭、樹元章浩、福本義弘、廣岡良隆、比嘉えりか、井上博雅、小島武士、中西洋一、下川宏明、砂川賢二：無症状で発見された右内胸動脈—肺動脈ろうの一例。第96回日本循環器学会九州地方会 (6月26日、2004年、熊本)
- 134) 荒木周一郎、井口孝介、樹元章浩、吉田昌義、福本義弘、伊藤 昭、廣岡良隆、下川宏明、砂川賢二：急性期にタコツボ型の左室収縮不全を認め、回復期のアセチルコリン負荷で冠微小循環不全が疑われた一例。第96回日本循環器学会九州地方会 (6月26日、2004年、熊本)
- 135) 福本義弘、下川宏明、大井啓司、阿部弘太郎、上徳豊和、伊藤 昭、竹下 彰、砂川賢二：重症虚血性心疾患に対する非侵襲性体外衝撃波治療の開発。第4回心血管再生・アポトーシスフォーラム (7月3日、2004年、東京)
- 136) 福本義弘、下川宏明、大井啓司、阿部弘太郎、上徳豊和、伊藤 昭、竹下 彰、砂川賢二：重症虚血性心疾患に対する非侵襲性体外衝撃波治療の開発。第10回成人

- 病の病因・病態の解明に関する研究会（7月3日、2004年、軽井沢）
- 137) 下川宏明：内皮由来弛緩因子と活性酸素。第10回北海道活性酸素・フリーラジカル研究会（7月10日、2004年、札幌）
- 138) 下川宏明：動脈硬化の治療標的としての Rho-kinase の重要性。第41回日本臨床分子医学会学術集会（7月16日、2004年、福岡）Translational Research Forum I「Metabolic Syndrome の分子基盤と新たな治療展開」
- 139) 下川宏明：血管病の克服を目指した展開医療の実践。第8回信州ハートクラブ（7月17日、2004年、松本）
- 140) 服部 剛、阿部弘太郎、東みどり子、松本泰治、廣木潤子、向井 靖、江頭泰博、盛重邦雄、下川宏明：血管リモデリングの治療標的としての Rho-kinase の意義。第36回日本動脈硬化学会学術総会（7月23—24日、2004年、福岡）。シンポジウム「血管リモデリングの制御」
- 141) 東みどり子、下川宏明：Angiotensin II 誘発性心血管肥大における Rho-kinase の関与。第36回日本動脈硬化学会学術総会（7月23—24日、2004年、福岡）。シンポジウム「血管リモデリングの制御」
- 142) 阿部弘太郎、下川宏明：Rho-kinase を標的とした原発性肺高血圧治療の新しい分子治療法の開発。第36回日本動脈硬化学会学術総会（7月23—24日、2004年、福岡）。シンポジウム「血管リモデリングの制御」
- 143) 上徳豊和、大井啓司、下川宏明：低出力体外衝撃波を用いた重症虚血性心疾患に対する非侵襲性血管新生療法の開発。第36回日本動脈硬化学会学術総会（7月23—24日、2004年、福岡）。シンポジウム「血管リモデリングの制御」
- 144) 松本泰治、上徳豊和、大井啓司、阿部弘太郎、下川宏明：選択的 CCR2 ケモカイン受容体阻害薬である Propagermanium は動脈硬化プラーク冠動脈におけるステント留置後の内膜肥厚形成を抑制する。第36回日本動脈硬化学会学術総会（7月23—24日、2004年、福岡）。シンポジウム「血管リモデリングの制御」
- 145) 下川宏明：虚血性心疾患と EPA。第9回東京ブロック JELIS 研究会（7月31日、2004年、東京）
- 146) 森川敬子、的場哲哉、窪田 洋、島中 真、藤木貴子、下川宏明：内皮由来過分極因子(EDHF)の産生における Cu, Zn-SOD の役割。第2回血液・血管オルビス（8月28—29日、2004年、神戸）
- 147) 市来俊弘、小野弘樹、下川宏明、砂川賢二：血管平滑筋における Mst1 の機能。第5回血管病研究会（8月21日、2004年、名古屋）
- 148) 阿部弘太郎、下川宏明：肺高血圧症の新たな治療標的としての Rho-kinase の意義。第4回 Cardiovascular Medicine 21 フォーラム（8月21日、2004年、東京）
- 149) 下川宏明：動脈硬化における Rho-kinase の関与。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）【教育講演】
- 150) 下川宏明：狭心症治療の実際と新しい治療法の展望。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）【ランチョンセミナー】
- 151) 福本義弘、下川宏明、竹下 彰、砂川賢二：重症虚血性心臓病に対する非侵襲性体外衝撃波療法の開発。第52回日本

- 心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 152) 福本義弘、下川宏明、竹下 彰、砂川賢二：肺高血圧に対する新たな治療戦略：Rho キナーゼ阻害薬。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 153) 廣岡良隆、榊元章浩、田川辰也、下川宏明、竹下 彰、砂川賢二：心不全患者の血管拡張反応異常における Rho-kinase の役割。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 154) 大井啓司、下川宏明、廣木潤子、上徳豊和、阿部弘太郎、竹下 彰：ポックリ病患者由来のレムナントリポ蛋白分画はセロトニン誘発性冠攣縮性反応を惹起する。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 155) 大井啓司、下川宏明、上徳豊和、竹下 彰、砂川賢二：低出力体外衝撃波を用いた重症虚血性心臓病に対する非侵襲性血管新生療法の開発 —基礎的検討—。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 156) 上徳豊和、下川宏明、阿部弘太郎、大井啓司、樋詰貴登士、砂川賢二：急性心筋梗塞後の左室リモデリングに対する非侵襲性体外式衝撃波治療の開発。第52回日本心臓病学会学術集会（9月13—15日、2004年、京都）
- 157) 下川宏明：虚血性心疾患の成因における Rho-kinase の意義。東海医学会講演会（9月22日、2004年、伊勢原）
- 158) 下川宏明：重症虚血性心臓病に対する体外衝撃波治療の開発。福岡労災保険指定病院協会学術講演会（10月26日、2004年、福岡）
- 159) 下川宏明：虚血性心疾患治療の最前線 —この1年間の動向—。第23期循環器内科学学生涯講座（10月28日、2004年、福岡）
- 160) T. Hattori, H. Shimokawa, Rho-kinase as a novel therapeutic target in the treatment of cardiovascular diseases. 第1回日本血管生物医学会（11月4—6日、2004, 淡路島）【シンポジウム】 New strategy for suppression of disease.
- 161) T. Fujiki, H. Shimokawa, K. Morikawa, H. Kubota, M. Hatanaka, T. Matoba, MAH. Talukder, A. Takeshita, K. Sunagawa. Endothelium-derived hydrogen peroxide accounts for the enhancing effect of an angiotensin converting enzyme inhibitor on EDHF-mediated relaxations in mice. 第1回日本血管生物医学会（11月4—6日、2004, 淡路島）【シンポジウム】 New strategy for suppression of disease.
- 162) K. Morikawa, T. Kubota, T. Matoba, T. Fujiki, M. Hatanaka, H. Shimokawa. Important role of superoxide dismutase in EDHF-mediated relaxations of human mesenteric arteries. 第1回日本血管生物医学会（11月4—6日、2004, 淡路島）【シンポジウム】 New strategy for suppression of disease.
- 163) K. Abe, T. Uwatoku, K. Oi, T. Hizume, T. Hattori, H. Shimokawa. Long-term treatment with a Rho-kinase inhibitor improves monocrotaline-induced fatal pulmonary hypertension in rats. 第1回日本血管生物医学会（11月4—6日、2004, 淡路島）【シンポジウム】 New strategy for suppression of disease.
- 164) T. Uwatoku, H. Shimokawa, K. Abe, K. Oi, T. Hizume, K. Sunagawa. Extracorporeal cardiac shock wave therapy

- suppresses left ventricular remodeling after myocardial infarction in pigs. 第1回日本血管生物医学学会(11月4-6日、2004, 淡路島)【シンポジウム】New strategy for suppression of disease.
- 165) 樋詰貴登士、下川宏明、久保千春: 血清コルチゾールの持続高値はブタ冠動脈の過収縮反応を惹起する一Rho-kinase 経路の関与—, 第2回日本循環器心身医学学会(11月27日、2004年、名古屋)
- 166) 下川宏明, Rho-kinase 阻害薬の将来展望. Sunrise Stroke Session for Rho-kinase inhibitors (12月11日、2004年、東京)
- 167) 野上貴司、園田達彦、村田正治、秋吉一成、片山佳樹. リン酸化シグナル応答型ナノゲル微粒子. 日本化学会第84春季年会 2004年3月
- 168) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、片山佳樹. プロテインキナーゼシグナル応答型遺伝子転写制御システム. 日本化学会第84春季年会 2004年3月
- 169) 井上雄介、濱口裕三、園田達彦、村田正治、稲森和紀、片山佳樹. 2D-SPR を利用した細胞内リン酸化シグナル検出システムの開発. 日本化学会第84春季年会 2004年3月
- 170) 野上貴司、園田達彦、村田正治、秋吉一成、片山佳樹. 細胞内リン酸化シグナル応答型ナノゲル微粒子. 第53回 高分子学会年次大会 2004年5月
- 171) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、片山佳樹. プロテインキナーゼシグナル応答型遺伝子導入剤の開発とその評価. 第53回 高分子学会年次大会 2004年5月
- 172) 生田健次郎、山本竜広、阿部弘太郎、上徳豊和、大井啓司、村田正治、下川宏明、片山佳樹. 血管内障害を認識する薬物キャリアの合成と基礎評価. 第53回 高分子学会年次大会 2004年5月
- 173) 浦崎哲彦、山本竜広、生田健次郎、村田正治、吉満研吾、下川宏明、片山佳樹. 熱応答型 MRI 造影剤の合成と基礎評価. 第65回分析化学討論会・2004年5月
- 174) 河村 健司・大石 潤・園田 達彦・村田 正治・片山 佳樹. 細胞内プロテアーゼシグナル応答型遺伝子送達システムの構築. 第53回 高分子学会年次大会 2004年5月
- 175) 井上雄介、濱口裕三、園田達彦、村田正治、稲森和紀、片山佳樹. 2D-SPR を利用した細胞シグナル動態解析法の開発. 第41回化学関連支部合同九州大会 2004年7月
- 176) 生田健次郎、山本竜広、阿部弘太郎、上徳豊和、大井啓司、村田正治、下川宏明、片山佳樹. 血管内障害を認識する薬物キャリアの開発. 第41回化学関連支部合同九州大会 2004年7月
- 177) 浦崎哲彦、山本竜広、生田健次郎、村田正治、吉満研吾、下川宏明、片山佳樹. 熱応答型 MRI 造影剤の合成と造影能の評価. 第41回化学関連支部合同九州大会 2004年7月
- 178) 浦崎哲彦、山本竜広、生田健次郎、村田正治、吉満研吾、下川宏明、片山佳樹. 温度応答型 MRI 造影剤の開発. 第22回九州分析化学若手の会 夏季セミナー・2004年7月
- 179) 河村健司、大石潤、村田正治、片山佳樹. 細胞内シグナルに反応して遺伝子転写を制御できる遺伝子送達法. 第14回バイオ・高分子シンポジウム 2004年7月
- 180) Yoshiki Katayama, Kenji Kawamura, Jun Ohishi, Masaharu Murata.

- Intracellular Signal-responsive Gene Carrier for Novel Cellular Specific Regulation of Gene Expression. 第 41 回 高分子国際会議 (IUPAC Macro2004) 2004 年 7 月
- 181) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、片山佳樹. 細胞内シグナル応答型遺伝子発現制御システムの開発. 第 41 回化学関連支部合同九州大会 2004 年 7 月
- 182) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、片山佳樹. 細胞内シグナルに回答して遺伝子を制御する高分子-DNA 複合体. 高分子若手講演会 2004 年 8 月
- 183) 浦崎哲彦、山本竜広、生田健次郎、大井啓司、上徳豊和、阿部弘太郎、村田正治、吉満研吾、下川宏明、片山佳樹. 血管内皮障害を認識する新規 MRI 造影剤の合成と評価. 日本分析化学会第 53 年会・2004 年 9 月
- 184) 生田健次郎、山本竜広、阿部弘太郎、上徳豊和、大井啓司、村田正治、下川宏明、片山佳樹. 血管内障害を認識する薬物キャリアの機能評価. 第 53 回高分子討論会 2003 年 9 月
- 185) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、片山佳樹. D-RECS(1) プロテインキナーゼシグナル応答型遺伝子発現制御システムの創製. 第 53 回高分子討論会 2004 年 9 月
- 186) 野上貴司、園田達彦、村田正治、秋吉一成、片山佳樹. D-RECS(2) リン酸化シグナル応答型材料の開発. 第 53 回高分子討論会 2003 年 9 月
- 187) Kota Kodama, Yoko Shoji, Hideki Nakashima, Jeong-Hun Tang, Kenji Kawamura, Jun Ohishi, Takuro Niidome and Yoshiki Katayama. Artificial gene regulation system responding to HIV protease. AIPPS-JPS 2004 2004 年 10 月
- 188) 大石 潤、河村健司、園田達彦、村田正治、新留琢郎、片山佳樹. 細胞対話型分子を利用した新規遺伝子制御システム. ナノメディシン・シンポジウム 2004 年 11 月
- 189) 片山佳樹. 細胞対話型分子システムを用いる革新的遺伝子送達概念の創製. ナノメディシン・シンポジウム 2004 年 11 月
- 190) 児玉耕太、東海林洋子、中島秀喜、姜 貞勲、河村 健司、大石 潤、新留 琢郎、片山佳樹. Artificial gene regulation system responding to HIV protease. ナノメディシン・シンポジウム 2004 年 11 月
- 191) 大石 潤 河村健司 園田達彦 村田正治 片山佳樹. 細胞内シグナル応答型遺伝子発現制御システムの開発. 高分子九州支部特別講演会 2004 年 11 月
- 192) 児玉耕太、東海林洋子、中島秀喜、姜 貞勲、河村 健司、大石 潤、新留 琢郎、片山佳樹. HIV 治療を目的としたインテリジェントナノキャリアーの設計. 第 10 回大阪市立大学ナノサイエンス・ナノテクノロジーフォーラム・2004 年 11 月
- 193) 崔 学東、新名主 輝男、松田 武久. Synthesis and Properties of Multi-stage Temperature-sensitive Copolymer via Quasi-living Radical Photopolymerization Technique. 日本化学会西日本大会講演予稿集 F2-07、平成 16 年 10 月、大分大学
- 194) 崔 学東、新名主 輝男、松田 武久. Synthesis and Properties of Multi-stage Temperature-sensitive Copolymer. 第 4 1 回化学関連支部合同九州大会講演予稿集 3\_5.64、平成 16 年 7 月、北九州国

際会議場

- 195) 木戸秋悟、松田武久、"電界紡糸ナノ・マイクロファイバーによる組織工学骨格基材の機能的設計と医用デバイス化"、第15回 繊維学会西部支部セミナー、福岡、2004年6月(招待口演)
- 196) 朝井雅剛、沼田宗典、新海征治、櫻井和朗、藤田典史、長谷川輝明。β-1,3-glucan-カーボンナノチューブ複合体の形成とその構造評価。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 197) 沼田宗典、新海征治。核酸を鋳型とした新規ナノシリカの創製。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 198) 穴田貴久、水 雅美、甲元一也、狩長亮二、長谷川輝明、松本貴博、櫻井和朗、新海征治。化学修飾シゾフィランを利用したアンチセンスオリゴヌクレオチドキャリアーの開発。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 199) 甲元一也、穴田貴久、櫻井和朗、新海征治。シゾフィランの化学修飾による複合体中の核酸鎖の加水分解速度の抑制。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 200) 狩長亮二、甲元一也、穴田貴久、櫻井和朗、新海征治。リエチレングリコールを導入したシゾフィランを利用した新規アンチセンスキャリアー。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 201) 長谷川輝明、梅田真理子、松本貴博、沼田宗典、水 雅美、甲元一也、穴田貴久、櫻井和朗、新海征治。ラクトース修飾シゾフィランによる肝細胞特異的アンチセンスデリバリー系の構築。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 202) 佐藤 琢、長崎 健、坂入信夫、新海征治。6-アミノ-6-デオキシキトサンへの哺乳類細胞への遺伝子導入活性評価。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 203) 木村太郎、別府亜希子、櫻井和朗、新海征治。多糖シゾフィラン-核酸相互作用を用いた新規メッセンジャーRNA 分離システムの開発。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 204) 梅田真理子、沼田宗典、長谷川輝明、松本貴博、櫻井和朗、新海征治。アゾベンゼン修飾β-1,3-グルカンを用いた新規機能性材料の開発。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 205) 松本貴博、梅田真理子、沼田宗典、長谷川輝明、新海征治、櫻井和朗。β-1,3-グルカン-機能性高分子コンジュゲートの構築と機能評価。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 206) 長崎 健、宇野 篤、佐藤 琢、甲元一也、櫻井和朗、新海征治。カチオン化シゾフィランを用いた動物細胞への遺伝子導入。日本化学会第84春季年会、2004年3月
- 207) 沼田宗典、長谷川輝明、金子賢治、櫻井和朗、新海征治。β-1,3-グルカンを一次元ホストとして利用した機能性材料の創製。第19回生体機能関連化学部会、2004年10月(東大)
- 208) 山口智弘、大塚英幸、木戸秋悟、松田武久、高原 淳、エレクトロスプレーデポジション法による生分解性セグメント化ポリウレタンおよびセグメント化ポリウレタンウレアマイクロファイバーの調製、第33回九大生体材料・力学研究会、九州大学、2004年3月
- 209) 山口智弘、大塚英幸、木戸秋 悟、松田武久、高原 淳、生分解性セグメント化ポリウレタンおよびセグメント化ポリウレタンウレアの特性解析とマイクロファイバーの調製、第53回高分子学会年次大会、神

- 戸国際会議場 (神戸市)、2004年5月
- 210) A. Takahara, Preparation of Bio-degradable Segmented Polyurethanes and Polyurethaneureas from Lysine-Based Diisocyanate, 8th World Conference on Biodegradable Polymers and Plastics, Seoul, Korea, June, 2004
- 211) A. Takahara, M. Hadano, T. Yamaguchi, H. Otsuka, S. Kidoaki, T. Matsuda, Characterization of Novel Bio-degradable Segmented Polyurethanes nad Polyurethaneureas from Amino-acid Based Diisocyanate, 40th IUPAC International Symposium on Macromolecules (MACRO 2004), Paris, France, July, 2004
- 212) 波多野 道子、山口 智弘、大塚英幸、木戸秋 悟、松田 武久、高原 淳、アミノ酸由来のジイソシアナートを用いたセグメント化ポリウレタンマイクロファイバーの調製、第 41 回化学関連支部九州大会、北九州国際会議場、2004年7月
- 213) 波多野 道子、山口 智弘、大塚英幸、木戸秋 悟、松田 武久、高原 淳、生分解性セグメント化ポリウレタンの分子鎖凝集構造と分解挙動、第 53 回高分子討論会、北海道大学、2004年9月
- 214) 波多野 道子、山口 智弘、大塚英幸、木戸秋 悟、松田 武久、高原 淳、リジンジイソシアナートを用いた生分解性セグメント化ポリウレタンの凝集構造と物性評価、平成 16 年度繊維学会秋季研究発表会、熊本大学、2004年9月
- 215) 波多野 道子、山口 智弘、大塚英幸、青井 啓悟、佐々木 園、高原 淳、アミノ酸由来のジイソシアナートを用いた生分解性セグメント化ポリウレタンの凝集構造と分解挙動の評価、ポリウレタンフォーラム・高分子学会九州支部フォーラム「ポリウレタンを考える VI」、長崎大学、長崎県長崎市文教町、2005年2月
- 216) 波多野 道子、山口 智弘、大塚英幸、木戸秋 悟、松田 武久、青井 啓悟、高原 淳、リジンジイソシアナートを用いた環境調和型ポリウレタンの合成とその特性解析、第 5 回 GSC シンポジウム、学術総合センター・一橋記念講堂、2005年3月
- 217) 高松洋、岡野博幸、福田優子、松田武久、感温性ゼラチンを用いた細胞の培養下選別回収法、日本機械学会第 17 回バイオエンジニアリング講演会、2005.1.
- 218) H. Takamatsu, H. Okano, Y. Fukuda, T. Matsuda, A New Method for In-Situ Harvesting of a Target Cell, ASME 2005 Summer Bioengineering Conference, 2005.6.
- 219) K. Nakayama, S. Matsuda, K. Tanaka, H. Mizuchi, Y. Iwamoto, IN VIVO STUDY OF SCAFFOLD FREE MESENCHYMAL STEM CELL PLUG FOR CARTILAGE REPAIR, The 5th bi-annual meeting of International Cartilage Repair Society (May 26-29, 2004, Gent, Belgium)
- 220) K. Nakayama, S. Matsuda, K. Tanaka, Y. Iwamoto, SCAFFOLD FREE MESENCHYMAL STEM CELL PLUG FOR AUTOLOGOUS REPAIR OF OSTEO-CHONDRAL DEFECT IN RABBIT, 5th Combined Meeting of the Orthopaedic Research Societies of Canada, U.S.A., Japan and Europe (October 10 - 13, 2004, Alberta, Canada)
- 221) 中山功一、松田秀一、田仲和宏、岩本幸英、細胞単独からなる骨軟骨様プラグの作成、第 17 回日本軟骨代謝学会 (2004, 3, 12-13 東京)
- 222) 中山功一、松田秀一、田仲和宏、水内秀城、岩本幸英、細胞単独からなる間

葉系幹細胞プラグを用いた軟骨再生, 第3  
6回日本結合織学会(2004, 6, 3-  
4, 福岡)

223) 中山功一、松田秀一、田仲和宏、  
岩本幸英, 細胞単独からなる自家骨髄間  
葉系幹細胞プラグを用いた軟骨の再生,  
第23回 日本運動器移植・再生医学研  
究会(2004, 9, 18, 岡山)

#### F. 知的財産の出願・登録状況

- 1) 名称: 細胞が播種されたステント  
発明者: 松田武久、城田利彦、安井久喬  
出願人: 鐘淵化学工業  
特願 2002-112075
- 2) 名称: 細胞が播種されたステントグラフ  
ト  
発明者: 松田武久、城田利彦、安井久喬  
出願人: 鐘淵化学工業  
特願 2002-112076
- 3) 名称: 留置チューブとそのチューブのコ  
ーティング方法  
発明者: 松田武久、前山良、宮野保男、  
井上義光  
出願人: オリンパス光学工業株式会社
- 4) 名称: 新規な血管狭窄治療剤又は予防剤  
発明者: 下川宏明  
出願人: 日本化薬株式会社
- 5) 名称: 軟骨組織再生用補助材、軟骨組織再

生用キット及び軟骨組織再生方法

発明者: 松田武久、岩本幸英、指宿真一  
出願人: 松田武久、岩本幸英、指宿真一、  
山本順一

6) 名称: 医療用高分子ナノ・マイクロファイ  
バー

発明者: 松田 武久、木戸秋 悟  
出願人: 産学連携機構九州  
出願日: 2003年4月24日  
公開日: 2004年11月18日  
出願番号: 2003-120266

7) 名称: 細胞含有製剤  
発明者: 松田武久、田中雅夫、真鍋達也、  
中村敏一、松本邦夫  
出願人: 産学連携機構九州  
出願日:  
出願番号: 2003-162940

8) 名称: 心血管病の治療又は予防の為の医  
薬組成物

発明者: 下川宏明  
出願人: 三共株式会社  
出願日: 2004年1月29日  
出願番号: 2004-21864

9) 名称: MRI 用造影剤  
発明者: 片山佳樹、下川宏明、山本竜広  
出願人: (株) 産学連携機構九州  
国際出願日: 2004年2月3日  
国際出願番号: PCT/JP2004/001063  
国際公開日: 2004年9月10日

## 研究成果の刊行に関する一覧表

### 雑誌

#### ● 主任研究者：松田 武久

1) 著者：H. Ziani-Cherif, Y. Abe, K. Imachi, T. Matsuda.

タイトル：Visible-light-induced surface graft polymerization via camphorquinone impregnation technique.

雑誌名、巻号、ページ、出版年：J Biomed Mater Res, 59: 386-389, 2002.

2) 著者：M. Mizutani and T. Matsuda

タイトル：Photocurable Liquid Biodegradable Copolymers: In vitro Hydrolytic Degradation Behaviors of Photocured Films of Coumarin-Endcapped Poly( $\epsilon$ -caprolactone-co-trimethylene carbonate).

雑誌名、巻号、ページ、出版年：Biomacromolecules, 3(2): 249-255, 2002.

3) 著者：N. Morikawa and T. Matsuda.

タイトル：Thermoresponsive Artificial Extracellular Matrix: N-Isopropylacrylamide-Graft-Copolymerized-Gelatin.

雑誌名、巻号、ページ、出版年：J. Biomater. Sci. Polymer Edn, 13 (2): 167-183, 2002.

4) 著者：M. Mizutani and T. Matsuda.

タイトル：Liquid Photocurable Biodegradable Copolymers: In Vivo Degradation of Photocured Poly( $\epsilon$ -Caprolactone-co-Trimethylene Carbonate).

雑誌名、巻号、ページ、出版年：J Biomed Mater Res, 61: 53-60, 2002.

5) 著者：T. Matsuda, T. Magoshi, H. Ziani-Cherif, S. Ohya, Y. Nakayama.

タイトル：Thermoresponsive heparin coating: heparin conjugated with poly(N-isopropylacrylamide) at one terminus.

雑誌名、巻号、ページ、出版年：Langmuir, 18 (12): 4862-4872, 2002.

6) 著者：M. Mizutani, Steven C. Arnold, T. Matsuda.

タイトル：Liquid, Phenylazide-Endcapped Copolymers of  $\epsilon$ -Caprolactone and Trimethylene Carbonate: Preparation, Photocuring Characteristics and Surface Layering.

雑誌名、巻号、ページ、出版年：Biomacromolecules, 3(4): 668-675, 2002.

7) 著者：T. Matsuda and T. Magoshi.

タイトル：Preparation of Vinylated Polysaccharides and Photofabrication of Tubular scaffolds as Potential Use in Tissue Engineering.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Biomacromolecules, 3 (5) : 942-950, 2002.

8) 著者 : T. Magoshi and T. Matsuda.

タイトル : Formation of Polymerized Mixed Heparin/Albumin Surface Layer and Cellular Adhisional Responses.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Biomacromolecules, 3 (5) : 976-983, 2002.

9) 著者 : M. Mizutani and T. Matsuda.

タイトル : Liquid Acrylate-Endcapped Biodegradable Poly(e-Caprolactone-co-Trimethylene Carbonate) (I) : Preparation and Visible-Light-Induced Photocuring Characteristics.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Biomed Mater Res, 62: 387-394, 2002.

10) 著者 : T. Matsuda and M. Mizutani

タイトル : Liquid-Acrylate-Endcapped Biodegradable Poly(e-Caprolactone-co-Trimethylene Carbonate) (II) : Computers-aided Stereolithographic Microarchitectural Surface-Photoconstructs.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Biomed Mater Res, 62:395-403, 2002.

11) 著者 : Y. Nakayama, S. Nishi, H. Ueda-Ishibashi, T. Matsuda.

タイトル : Fabrication of micropored elastomeric film-covered stents and acute-phase performances.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J. Biomed Mater Res. 64 A: 52-61, 2003.

12) 著者 : T. Shirota, H. He, H. Yasui, T. Matsuda.

タイトル : Human endothelial progenitor cell (EPC)-seeded hybrid graft: proliferative and antithrombogenic potentials of EPC.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Tissue Eng 9( 1): 127-136, 2003.

13) 著者 : S. Ibusuki, Y. Fujii, Y. Iwamoto, T. Matsuda.

タイトル : Tissue-engineered cartilage using an injectable and in situ gelable thermoresponsive gelatin: fabrication and in vitro performances.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Tissue Eng 9 (2): 371-84, 2003.

14) 著者 : H. Sonoda, K. Takamizawa, Y. Nakayama, H. Yasui, T. Matsuda.

タイトル : Coaxial double-tubular compliant arterial graft prosthesis: time-dependent morphogenesis and compliance changes after implantation.

雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Biomed Mater Res. 65A(2):170-81, 2003.

- 15) 著者 : T. Shirota, H. Yasui, H. Shimokawa, T. Matsuda.  
タイトル : Fabrication of endothelial progenitor cell (EPC)-seeded intravascular stent devices and *in vitro* endothelialization on hybrid vascular tissue.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Biomaterials 24: 2295-2302, 2003.
- 16) 著者 : T. Shirota, H. Yasui, T. Matsuda.  
タイトル : Intraluminal tissue-engineered therapeutic stent using endothelial progenitor cell-inoculated hybrid tissue and *in vitro* performance.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Tissue Eng. 9(3): p473-485, 2003.
- 17) 著者 : H. He, T. Shirota, H. Yasui, T. Matsuda.  
タイトル : Canine endothelial progenitor cell-lined hybrid vascular graft with nonthrombogenic potential.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Thorac Cardiovasc Surg. 126(2):455-464, 2003.
- 18) 著者 : H. Okino, T. Manabe, M. Tanaka, T. Matsuda.  
タイトル : Novel therapeutic strategy for prevention of malignant tumor recurrence after surgery: Local delivery and prolonged release of adenovirus immobilized in photocured, tissue-adhesive gelatinous matrix.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Biomed Mater Res. 66A(3): 643-51, 2003.
- 19) 著者 : T Matsuda.  
タイトル : Recent Progress of Vascular Graft Engineering in Japan.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Artificial Organs 28(1) : 64-71, 2004.
- 20) 著者 : H Sonoda, H Yasui, T Matsuda.  
タイトル : A device for the spatio-regional delivery of a photocurable drug formulation.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : Biomaterials 25: 2859-2866, 2004.
- 21) 著者 : S Kato, S Kidoaki, T Matsuda.  
タイトル : Substrate-dependent cellular behavior of Swiss 3T3 fibroblasts and activation of Rho family during adhesion and spreading processes.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年 : J Biomed Mater Res 68A: 314-324, 2004.
- 22) 著者 : R Maeyama, Y Mizunoe, J. M. Anderson, M Tanaka, T Matsuda.  
タイトル : Confocal imaging of biofilm formation process using fluoroprobed *Escherichia coli* and fluoro-stained exopolysaccharide.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: J Biomed Mater Res 70A: 274-282, 2004.

23) 著者: T Matsuda, I. K. Kwon, S Kidoaki.

タイトル: Photocurable Biodegradable Liquid Copolymers : Synthesis of Acrylate-End-Capped Trimethylene Carbonate-Based Prepolymers, Photocuring, and Hydrolysis.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomacromolecules 5(2): 295-305, 2004.

24) 著者: T Masuda, M Furue, T Matsuda.

タイトル: Photocured, Styrenated Gelatin-Based Microspheres for deNovo Adipogenesis through Corelease of Basic Fibroblast Growth Factor, Insulin, and Insulin-Like Growth Factor I.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Tissue Eng 10(3/4): 523-535, 2004.

25) 著者: T Manabe, H Okino, M Tanaka, T Matsuda.

タイトル: In situ-formed, tissue-adhesive co-gel composed of styrenated gelatin and styrenated antibody: potential use for local anti-cytokine antibody therapy on surgically resected tissues.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials 25: 5867-5873, 2004.

26) 著者: I. K. Kwon, T Matsuda.

タイトル: Photo-polymerized microarchitectural constructs prepared by microstereolithography ( $\mu$ SL) using liquid acrylate-end-capped trimethylene carbonate-based prepolymers.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials 26: 1675-1684, 2005.

27) 著者: S Ohya, S Kidoaki, T Matsuda.

タイトル: Poly (N-isopropylacrylamide) (PNIPAM)-grafted gelatin hydrogel surfaces : interrelationship between microscopic structure and mechanical property of surface regions and cell adhesiveness.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials 26: 3105-3111, 2005.

28) 著者: S Ohya, H Sonoda, Y Nakayama, T Matsuda.

タイトル: The potential of poly (N-isopropylacrylamide) (PNIPAM)-grafted hyaluronan and PNIPAM-grafted gelatin in the control of post-surgical tissue adhesions.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials 26: 655-659, 2005.

29) 著者: T Masuda, M Furue, T Matsuda.

タイトル: Novel Strategy for Soft Tissue Augmentation Based on Transplantation of  
Fragmented Omentum and Preadipocytes.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Tissue Eng 10(11/12): 1672-1683, 2004.

●分担研究者: 下川 宏明

30) 著者: T. Uwatoku, H. Shimokawa, K. Abe, et al.

タイトル: Application of nanoparticle technology for the prevention of restenosis  
after balloon injury in rats.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Circ. Res. 2003;92: e62-e69.

31) 著者: T Nishida, H Shimokawa, K Oi, H Tatewaki, T Uwatoku, K Abe,

Y Matsumoto, N Kajihara, M Eto, T Matsuda, H Yasui, A Takeshita, K Sunagawa.

タイトル: Extracorporeal Cardiac Shock Wave Therapy Markedly Ameliorates

Ischemia-Induced Myocardial Dysfunction in Pigs in Vivo.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Circulation 110: 3055-3061, 2004.

32) 著者: T Hattori, H Shimokawa, M Higashi, J Hiroki, Y Mukai, K Kaibuchi, A Takeshita.

タイトル: Long-Term Treatment With a Specific Rho-Kinase Inhibitor

Suppresses Cardiac Allograft Vasculopathy in Mice.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Circ Res 94: 46-52, 2004.

33) 著者: K Abe, H Shimokawa, K Morikawa, T Uwatoku, K Oi, Y Matsumoto,

T Hattori, Y Nakashima, K Kaibuchi, K Sueishi, A Takeshita.

タイトル: Long-Term Treatment With a Rho-Kinase Inhibitor Improves

Monocrotaline-Induced Fatal Pulmonary Hypertension in Rats.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Circ Res 94: 385-393, 2004.

34) 著者: K Oi, H Shimokawa, J Hiroki, T Uwatoku, K Abe, Y Matsumoto,

Y Nakajima, K Nakajima, S Takeichi, A Takeshita.

タイトル: Remnant Lipoproteins from Patients with Sudden Cardiac Death Enhance

Coronary Vasospastic Activity Through Upregulation of Rho-Kinase.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Arterioscler Thromb Vasc Biol 24: 918-922, 2004.

35) 著者: Y Matsumoto, T Uwatoku, K Oi, K Abe, T Hattori, K Morishige, Y Eto,

Y Fukumoto, K Nakamura, Y Shibata, T Matsuda, A Takeshita, H Shimokawa.

タイトル: Long-Term Inhibition of Rho-Kinase Suppresses Neointimal Formation After

Stent Implantation in Porcine Coronary Arteries: Involvement of Multiple Mechanisms.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Arterioscler Thromb Vasc Biol* 24: 181-186, 2004.

● 分担研究者: 片山 佳樹

36) 著者: T. Yamamoto, K. Ikuta, K. Oi, K. Abe, T. Uwatoku, M. Murata, N. Shigetani, K. Yoshimitsu, H. Shimokawa, Y. Katayama,

タイトル: First Functionalized MRI Contrast Agent Recognizing Vascular Lesions

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Anal. Sci.* 20, 5-7, 2004.

37) 著者: T. Sonoda, S. Shigaki, T. Nagashima, O. Okitsu, Y. Kita, M. Muarata, Y. Katayama  
タイトル: Mass-Tag Technology for Monitoring of Protein Kinase Activity Using Mass Spectrometry

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Bioorg. Med. Chem. Lett.*, 14, 847-850, 2004.

38) 著者: 片山佳樹、山本竜広、下川宏明

タイトル: 内皮傷害部位を特異的に診断できる造影剤

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Bio Medicinal Quick Review Net*, No.4009, 1-5, 2004.

39) 著者: 片山佳樹

タイトル: ケミストからみたポストゲノム10~プロテオミクスにおける質量分析~

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Dojin News*, No.110, 10-16, 2004

40) 著者: K Kawamura, J Oishi, J-H Kang, K Kodama, T Sonoda, M Murata, T Niidome, Y Katayama.

タイトル: Intracellular Signal-Responsive Gene Carrier for Cell-Specific Gene Expression.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Biomacromolecules* in press.

41) 著者: T Yamamoto, K Ikuta, K Oi, K Abe, T Uwatoku, F Hyodo, M Murata,

N Shigetani, K Yoshimitsu, H Shimokawa, H Utsumi, Y Katayama.

タイトル: In vivo MR detection of vascular endothelial injury using a new class of MRI contrast agent.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters* 14: 2787-2790, 2004.

● 分担研究者: 新名主 輝男

42) 著者: R Nogita, K Matohara, M Yamaji, T Oda, Y Sakamoto, T Kumagai, C Lim,

M Yasutake, T Shimo, C. W. Jefford, T Shinmyozu.

タイトル: Photochemical Study of [33]( 1, 3, 5 ) Cyclophane and Emission Spectral Properties of [3n]Cyclophanes ( n = 2-6).  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: J. AM. CHEM. SOC. 126(42): 13732-13741, 2004.

- 43) 著者: H Takemura, M Kotoku, M Yasutake, T Shinmyozu.  
タイトル: 9-Fluoro-18-hydroxy-[3.3]metacyclophane: Synthesis and Estimation of a C-F...H-O Hydrogen Bond.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Eur. J. Org. Chem.: 2019-2024, 2004.

●分担研究者: 木戸秋 悟

- 44) 著者: S. Kidoaki, I.K. Kwon, and T. Matsuda  
タイトル: Mesoscopic spatial designs of nano- and micron-fiber meshes for tissue-engineering matrix and scaffold based on newly devised multilayering and mixing electrospinning techniques  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials, 26(1): 37-46, 2005.
- 45) 著者: I. K. Kwon, S Kidoaki, T Matsuda.  
タイトル: Electrospun nano- to microfiber fabrics made of biodegradable copolyesters: structural characteristics, mechanical properties and cell adhesion potential.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomaterials 26: 3929-3939, 2005.

●分担研究者: 新海 征治

- 46) 著者: M. Numata, T. Matsumoto, M. Umeda, K. Koumoto, K. Sakurai, S. Shinkai  
タイトル: Polysaccharide-polynucleotide complexes (15): thermal stability of schizophyllan (SPG)/poly(C) triple strands is controllable by  $\alpha$ -amino acid modification  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Bioorg. Chem.*, 31, 163-171, (2003).
- 47) 著者: K. Sakurai, R. Iguchi, M. Mizu, K. koumoto, S. Shinkai  
タイトル: Polysaccharide-polynucleotide complexes. Part 7. Hydrogen-ion and salt concentration dependence of complexation between schizophyllan and single-stranded homo RNAs  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: *Bioorg. Chem.*, 31, 216-226 (2003).
- 48) 著者: T. Hasegawa, M. Umeda, T. Matsumoto, M. Numata, M. Mizu, K. Koumoto, K. Sakurai, S. Shinkai  
タイトル: Lactose-appended schizophyllan is a potential candidate as a

hepatocyte-targeted antisense carrier

雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Chem. Commun.*, 382-383 (2004)

- 49) 著者：M. Numata, M. Asai, K. Kaneko, T. Hasegawa, N. Fujita, Y. Kitada, K. Sakurai, S. Shinkai  
タイトル：Curdlan and schizophyllan (b-1,3-glucans) and entrap single-wall carbon nanotubes in their helical superstructure  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Chem. Lett.*, 232-233 (2004)
- 50) 著者：T. Matsumoto, M. Numata, T. Anada, M. Mizu, K. Koumoto, K. Sakurai, T. Nagasaki, S. Shinkai  
タイトル：Chemically modified polysaccharide schizophyllan for antisense oligonucleotides delivery to enhance the cellular uptake efficiency  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Biochem. Biophys. Acta*, 1670, 91-104 (2004)
- 51) 著者：A. H. Bae, S. W. Lee, M. Ikeda, M. Sano, S. Shinkai, K. Sakurai  
タイトル：Rod-like architecture and helicity of the poly(C)/schizophyllan complex observed by AFM and SEM  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Carbohydr. Res.*, 339, 251-258 (2004)
- 52) 著者：K. Koumoto, M. Umeda, M. Numata, T. Matsumoto, K. Sakurai, T. Kunitake, S. Shinkai  
タイトル：Low Mw sulfated curdlan with improved water solubility forms macromolecular complexes with polycytidylic acid  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Carbohydrate Res.*, 339, 161-167 (2004)
- 53) 著者：K M. Mizu, K. Koumoto, T. Kimura, K. Sakurai, S. Shinkai  
タイトル：Polysaccharide-polynucleotide complexes part17. Solvent effects on conformational-transition of polydeoxyadenylic acid in the complexes with schizophyllan  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Polym. J.*, 35, 714-720 (2003)
- 54) 著者：M Mizu, K Koumoto, T Anada, K Sakurai, S Shinkai.  
タイトル：Antisense oligonucleotides bound in the polysaccharide complex and the enhanced antisense effect due to the low hydrolysis.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：*Biomaterials* 25: 3117-3123, 2004.
- 55) 著者：K Koumoto, M Mizu, K Sakurai, T Kunitake, S Shinkai.  
タイトル：Polysaccharide/Polynucleotide Complexes, Part 6: Complementary-Strand-

Induced Release of Single-Stranded DNA Bound in the Schizophyllan Complex.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Chemistry & Biodiversity 1: 520-529, 2004.

56) 著者: R Karinaga, M Mizu, K Koumoto, T Anada, S Shinkai, T Kimura, K Sakurai.  
タイトル: First Observation by Fluorescence Polarization of Complexation between mRNA  
and the Natural Polysaccharide Schizophyllan.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Chemistry & Biodiversity 1: 634-639, 2004.

57) 著者: M Mizu, K Koumoto, T Anada, R Karinaga, T Kimura, T Nagasaki,  
S Shinkai, K Sakurai.  
タイトル: Enhancement of the Antisense Effect of Polysaccharide-Polynucleotide  
Complexes by Preventing the Antisense Oligonucleotide from Binding to Proteins  
in the Culture Medium.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Bull. Chem. Soc. Jpn., 77: 1101-1110, 2004.

58) 著者: M Mizu, K Koumoto, T Anada, T Matsumoto, M Numata, S Shinkai,  
T Nagasaki, K Sakurai.  
タイトル: A Polysaccharide Carrier for Immunostimulatory CpG DNAs To Enhance Cytokine  
Secretion.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: J. Am. Chem. Soc. 126: 8372-8373, 2004.

59) 著者: T Kimura, A Beppu, K Sakurai, S Shinkai.  
タイトル: Separation Technique for Messenger RNAs by Use of Schizophyllan/Poly (A)  
Tail Complexation.  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Biomacromolecules 6: 174-179, 2005.

●分担研究者: 高原 淳

60) 著者: A. Takahara, H. Sakata, M. Morita, T. Koga, H. Otsuka  
タイトル: Fabrication and Characterization of Multi-component Organosilane Nanofilms  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Composite Interfaces, 10, 489-504(2003).

61) 著者: T. Koga, M. Morita, H. Ishida, H. Yakabe, S. Sasaki, O. Sakata, A. Takahara  
タイトル: Analysis of Aggregation State of Polymer Thin Films Based on Grazing  
Incidence X-ray Diffraction  
雑誌名、巻号、ページ、出版年: Trans. Mater. Res. Soc. Jpn, 28, 85-88(2003).

62) 著者: T Yamaguchi, H Otsuka, S Kidoaki, T Matsuda, A Takahara.  
タイトル: Physicochemical Properties and Bio-degradation of Segmented Polyurethane

and Poly (urethane-urea) Derived from Lysine-Based Diisocyanate.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Transact. Mater. Res. Soc. Jpn 29(6): 2873-2876, 2004.

63) 著者: A Takahara, M Hadano, T Yamaguchi, H Otsuka, S Kidoaki, T Matsuda.

タイトル: Characterization of Novel Bio-degradable Segmented Polyurethanes Prepared from Amino-acid Based Diisocyanate.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Macromolecular Symposia in press.

●分担研究者: 岩本 幸英

64) 著者: S. Ibusuki, Y. Iwamoto, and T. Matsuda,

タイトル: System engineered cartilage using PNIPAAm-gelatin as in situ formable scaffold: In vivo performances

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Tissue Engineering, 9, 1133-1142 (2003).

65) 著者: S Matsuda, H Miura, R Nagamine, T Mawatari, M Tokunaga, R Nabeyama, Y Iwamoto.

タイトル: Anatomical analysis of the femoral condyle in normal and osteoarthritic knees.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Journal of Orthopaedic Research 22: 104-109, 2004.

●分担研究者: 田中 雅夫

66) 著者: T. Manabe, K. Mizumoto, E. Nagai, K. Matsumoto, T. Nakamura, T. Nukiwa, M. Tanaka, T. Matsuda.

タイトル: Cell-based protein delivery system for the inhibition of the growth of pancreatic cancer: NK4 gene-transduced oral mucosal epithelial cell sheet

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Clin Cancer Res. 2003;9(8):3158-66.

67) 著者: T Manabe, H Okino, R Maeyama, K Mizumoto, E Nagai, M Tanaka, T Matsuda.

タイトル: Novel strategic therapeutic approaches for prevention of local recurrence of pancreatic cancer after resection: trans-tissue, sustained local drug-delivery systems.

雑誌名、巻号、ページ、出版年: Journal of Controlled Release 100: 317-330, 2004.

●分担研究者: 森田 茂樹

68) 著者: S. Morita, Y. Ochiai, Y. Tanoue, M. Hisahara, M. Masuda, H. Yasui.

タイトル: Acute volume reduction with aortic valve replacement immediately improves ventricular mechanics in patients with aortic regurgitation

雑誌名、巻号、ページ、出版年: J Thorac Cardiovasc Surg 125(2) : 283-289, 2003

- 69) 著者： R. Tominaga, K. Kurisu, Y. Ochiai, A. Nakashima, M. Masuda, S. Morita, H. Yasui  
タイトル：Total aortic arch replacement through the L-incision approach  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：Ann Thorac Surg 75(1) : 121-125, 2003
- 70) 著者： N. Kajihara, S. Morita, T. Nishida, H. Tatewaki, M. Eto, K. Egashira, H. Yasui  
タイトル： Transfection with a dominant-negative inhibitor of monocyte  
chemoattractant Protein-1 gene improves cardiac function after six hours of  
cold preservation  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：Circulation 108 (Suppl II) : II-213-II-218 , 2003
- 71) 著者： Y. Oishi, Y. Nishimura, K. Imasaka, N. Kajihara, S. Morita, M. Masuda, H. Yasui  
タイトル： Impairment of coronary flow reserve and left ventricular function in the  
brain-dead canine heart  
雑誌名、巻号、ページ、出版年：Eur J Cardio-thorac Surg 24 : 404-410 , 2003